

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 3 月 9 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3495000022		
法人名	社会福祉法人 誠心福社会		
事業所名	誠心園グループホーム		
所在地	広島県江田島市江田島町宮の原3丁目18番66号		
自己評価作成日	平成29年2月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3495000022-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3495000022-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年3月3日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

周りを木に囲まれ、庭では野菜作りや季節の果物、さくらんぼ・柿・イチジク・栗等を収穫していただき、季節を体感していただくことを大切にしています。木の匂いのする暖かさを感じさせる家をコンセプトに、自然のエネルギーを利用するジオパワーシステムを導入したエコ住宅を創りました。別棟にある多目的棟では、利用者とレクリエーション、リハビリが行なえるスペースを設け、ADLの低下がないようにすることを大切にしています。1月に1回の行事、季節を、目で見て声で聞く、その為に外出を、自宅にいた時と同じように、家族と一緒に、そんな普段の生活を追求することに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

緑豊かな閑静な環境である。障子や格子戸など“和”を基調として、リビング、浴室の位置など、使い勝手が良く、明るく開放的で暖かさを感じる快適な生活空間である。かかりつけ医などとの連携、室温調整や掃除の徹底により、利用者の健康管理に努めている。周辺が民家の少ない地域でもあり、地域との関わりが難しい状況もあるが、積極的に地域行事などに参加し、地域交流が図られている。定期的な外出行事に加え、家族などの協力を得ながら、外出・外泊をしている。“利用者の生活習慣を大事にし、利用者の笑顔が見たい想いで”職員の都合を優先せず、利用者に寄り添って想いを汲み取り、職員間で話し合いを重ね、日々のケアを精進している。理念でもある、我が家のような普通であたり前の生活を支援するケアが、管理者をはじめ職員にも浸透し、日々実践されている。今後は、外部との交流（地域サロン、コミュニティサロンなど）を通して、社会との関わりをより深めていきたいと考えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「普通であたりまえの生活」を第一に、利用者主体の事業所として、新たに、理念を職員全体が認識し、いつでも口にすよう、実践に向けて、日々、取り組んでいる。	理念は、スタッフルームの視覚的に認識できるところに掲示され、確認されている。利用者の状況を踏まえて、事業計画・事業報告を作り上げ、理念と照らし合わせながら、日々、実践されている。事業所の取り組み状況は、管理者から代表者へ常に報告をされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方々とは、挨拶や気軽に声を掛け合う関係ができています。事業所の行事には、保育所の園児、近隣の方と一緒に楽しみ、交流している。	地元行事が盛んな地域である。運営推進会議に参加の区長からの情報により、地元行事（コミュニティ祭り、サマーフェスタ、サンタクロース慰問など）に参加している。事業所の行事には近隣の保育所の園児が訪問し、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等で、認知症の方への取り組みについて説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度の実施で、行政担当者、地域包括支援センター、地区長、役員、利用者、家族の方が参加している。会議では、活動状況 意見交換、助言を頂き、サービス向上に活かしている。	家族が数名（3名程度）であるが、家族の大半が定期的に面会に来られ、意見などを聴く努力をされている。参加者からの意見から、不参加者への対応として、議事録の送付をした経緯がある。次年度（H29年）は、開催日時の固定化を図り、より参加率を増やす取り組みを考えている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	事業運営をする上での、判断に困ったことや疑問点があった時など、市の担当者に連絡を取り、必要に応じて指導をいただいている。	市担当者から直接入居相談を受けることがある。疑問点などあれば、担当者と出来るだけ話をし、連携、協力関係を築く努力をされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人全体で身体拘束廃止委員会を設置年2回の全体研修を行なっている。事業所内で身体拘束を行わないケアの理解を深め職員間で共有し取り組んでいる。</p>	<p>見守りを徹底し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。法人内での研修が充実しており、研修を通して、職員一人ひとりが身体拘束しないケアについて理解している。身体拘束とみられるケースがあれば、その都度話し合いをしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人全体で虐待防止委員会を設置し、年2回の全体研修を行なっている。他に、業務の中で虐待となっていることがないか、職員間で間違った言動については、その場で注意しあっている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人全体で研修を開催している。事業所ではマニュアルを作成し、ミーティングを設けて、勉強会を行なっている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居前には、ご本人様に見学していただくようにしている。在宅時のケアマネジャーと連携をとり、家族の不安や疑問の解消に努めている。また、退去時も同様である。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族からの意見、要望については、気軽に、いつでも話して頂けるような雰囲気を作り、こちらから声かけ等行っている。出された意見等については、ミーティングや推進会議を通して検討し、運営に反映させている。</p>	<p>3カ月に1回、担当職員から生活状況の報告書を家族に送付している。必要時の電話連絡や、定期的な家族の面会時には、日頃の様子を家族にお知らせをしている。本人から「歩きたい」との要望があり、家族と相談し、車いすから歩行器へ移行された方がいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>運営等に関する職員からの意見や提案については、随時、その機会を設け、反映の為の努力をしている。</p>	<p>勤続年数が長い職員が多く、働きやすい職場でもあり、意見を出しやすい雰囲気である。個別面談を半年に1回実施し、意見や提案を聞く機会を設けている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人独自の評価があり、目標や評価を見直す機会がある。個人面接を行ったり、資格取得に向けた支援を行なっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の経験年数や力量にあわせ、外部評価への参加を実施している。また、法人全体への研修委員会にも積極的に参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>地域で開催されている研修や勉強会等に参加して、同業者とのネットワークを広げ、サービスの質の向上につなげている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>家族等からの情報を参考にし、利用者の立場に立ち、傾聴に努め、信頼関係が築けるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居に至るまでの家族の思いや家庭の事情等を十分に伺いながら、意見や要望をサービスの提供に活かしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談内容を整理し、必要な他サービスも検討しながら、本人、家族にとって最適な方法か否かを検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日々の関わりの中で、一緒に食事をしたり、テレビを見たり、横に座ったり、本人と軽作業に取り組むことで、支えあう関係が築かれている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>職員は、面会に来られる家族と利用者との間に入り、家族の思いを利用者に伝えたり、家族と職員が一緒になって利用者を支えていることを、理解していただけるよう努力している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>親戚や友人が面会に来られたり、以前、通院していた病院を受診したりと、関係が途切れないようにしている。お盆、クリスマス、正月には帰宅できるよう、家族に声かけしている。</p>	<p>家族の協力を得て、外出、外泊、以前通院の病院への受診や美容院に出掛けている。親戚・友人の訪問が多い状況である。ゆっくりと過ごして頂くように、居室への案内をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	本人の身体状態や性格を考慮し、テーブルの位置や居室を工夫している。夕食後から就寝までホールでお茶会をしてもらい、談話時間を増やすように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も、可能な限り家族の相談にのり、継続的に関わりを持つように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションを取りながら、本人の意向を聞きだすように努めている。家族や友人が来園された時にも様子を伺い、情報収集に努めている。	利用開始前には、必ず、事業所の見学をお願いし、契約時や面談においては、以前の生活・暮らしをよく聞くようにしている。お茶を飲みながらの会話や、居室でゆっくりと個人的な話を聴く努力をしている。利用者、個々の希望や意向は反映され、可能なことは実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に情報収集を行ない、生活歴や思いを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活日誌に、排泄、入浴、睡眠、食事量を記入し、心身状況を把握している。また、日常時の観察で能力を把握し、安心して暮らせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人 家族 スタッフの意見をまとめて、計画を作成し、必要に応じたカンファレンスを行いながら、計画の修正を行なっている。定期的にモニタリングを行ない、計画に反映させている。</p>	<p>職員の都合を優先せず、利用者に寄り添って、想いを汲み取り、本人のニーズ（編み物がしたいなど）に沿って支援している。“本人の楽しみ、笑って過ごして頂くように”利用者および家族の要望を踏まえて、介護計画を作成及び実施をしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、個別の記録を行ない、申し送りを通して、情報を共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>隣接している特別養護老人ホームやデイサービスの趣味活動に参加し、本人や家族の状況等に合わせ、意向を聞きながら、柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>消防署立会いの下で避難訓練を行っている。保育園児を招いての、餅つき等を行なっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人、家族からの希望を大切に、かかりつけ医への受診支援を行なっている。2週間に1度、歯科医の往診を受けている。</p>	<p>利用開始時に相談し、かかりつけ医を決めているが、本人の希望、病歴などを踏まえ、以前からのかかりつけ医が多い状況である。協力医の往診体制や併設施設の特別養護老人ホームの看護職員の体制により、適切な医療を受けられる体制にある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者の体調の変化や異常発生時には、直ちに事業所内の看護師に相談することができる。必要に応じて、特別養護老人ホームの看護師と連携をとり、健康管理に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にはスタッフが付き添い、病院関係者との情報交換を密にし、また退院に向けても同様に、連携をとっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化に向け、入居時に特別養護老人ホーム、本人 家族との話し合いを行ない、特別養護老人ホームへの申し込み等を行なってもらっている。急変時に備え、特別養護老人ホームと連携が取れる体制がある。</p>	<p>看取りの経験から、希望があれば看取りはする方針である。重度化やターミナルケアに向かう時期となれば、かかりつけ医や家族との話し合いをその都度重ねて対応している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時には、医師、看護師に連絡をし、指示を受けている。救急時の応急処置、心肺蘇生の方法を、消防署から指導を受けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署立会いの下で、避難訓練を実施し、運営推進会議にて、消防職員から災害時の対応について、説明を受けている。</p>	<p>運営推進会議で、災害対策について話し合いをしている。事業所が、南海大地震の警戒区域にも指定されており、消防署署員より、火災・水害・地震の防災教育を受けた経緯がある。災害時の避難場所として、併設の特別養護老人ホームが指定されており、本事業所は避難経路となっている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄や起床時の清拭については、羞恥心のある方には本人自身で対応して頂いている。トイレ誘導の必要な方には、距離を置き離れ、羞恥心に配慮している。居室に入るときは、必ずノックをして、了解を得てから入室するようにしている。	必ず、入室時にはノックをして入るようにしている。常に、第三者が見ても不審のない対応に心掛けている。一人ひとりの性格やペースに合わせて、不快な思いをしないように、十分気をつけた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出勤時には、利用者様に挨拶をして、表情を観察し、声かけしたり、話しやすいように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の入所前の習慣を念頭に置き、就寝、起床、食事時間は、可能な限りご本人のペースに合わせており、強要しないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った服装のアドバイス等をしている。入所前に利用していた理美容院に行く方もおられる。理美容院も、来訪している。整容時には声かけや介助をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食時は、利用者様の希望により、週3回、パン食を実施している。季節や行事に合わせた食事を提供している。時間を制約せず、ゆっくりと食事していただき、できる範囲で準備等を手伝って頂いている。	3食の副食（おかず）は、併設の特別養護老人ホームの厨房から食材が届いている。利用者の希望に応じて、にぎり寿司等を選択できる献立を用意している。食事時間は決まっているが、本人のペースに応じて、食事時間を柔軟に変更し、ゆっくりと食事ができるように対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎回、摂取量の記録をしており、状態に合わせて、摂取し易いように工夫している。（刻み・ムース）又水分補給が難しい方には、とろみや、代替として、好きなものを飲んで頂いている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>声かけや一部介助をして、食後の口腔ケアを実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>紙パンツではなく、布パンツの使用を出きる限り実施しており、個人の排泄パターンを把握したトイレ誘導を心かけている。</p>	<p>各居室にトイレが設置されている。必要時あるいは夜間のみ、ベッド横にポータブルトイレを設置している。トイレに座ることを基本とし、適切なトイレ誘導を行い、紙おむつ使用の削減を図る取り組みをしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便表に記録したり、トイレ掃除後に臭いや汚れ等で確認をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>身体状況や体調により、週2～3回の入浴をして頂いており、声かけや見守り、必要時の介助を行なっている。出来る限り、自分で行なっていただくようにしている。</p>	<p>檜風呂であり、檜の香りを楽しみながら入浴ができる。湯船に浸かることを基本としたケアに徹している。ゆっくりと入浴ができるように、希望や体調に合わせて、清潔が保てるように、週2～3回程度は入浴ができるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>中々眠れない方には、会話の援助をしたり、安心して眠れるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>主治医の指示の下に、服薬管理、介助、確認を実施している。症状の変化時には主治医に相談し、服薬関係は薬剤師に質問、相談している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>生活暦を念頭に入れ 特技や趣味をいかした支援をしている。季節を体感する為園内に植えられている さくらんぼ、イチジク、柿、栗等を収穫して楽しませている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>散歩、買い物、ドライブ、花見、外食等に出かけている。帰宅願望の訴え時は、ドライブや園外散歩を実施し、気分転換を図っている。</p>	<p>事業所の周辺は平坦で、散歩には適した環境である。天候やその日の体調に配慮し、散歩や買い物などしている。行事計画により、季節毎の外出もされている。以前、住まれていた場所へのドライブにより、車内では会話が弾んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>本人が希望した場合は、買い物に職員が同行し、好きなものを購入して頂き、事務所に購買内容を提出、管理している。買い物した場合は、家族に購入伺いと報告を、毎回している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望や必要時には、家族や知人へ電話をかけたり、手紙を書いたものを出したりする手伝いをしている。携帯電話を所持して、自由にやり取りをされている利用者が2名おられる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自然エネルギーを有効に取り入れたジオパワーシステムを導入し、自然に近い環境作りをしている。ホールは天井が高く、明るくゆったりしており、開放感がある。季節毎に飾り付けをして、季節を感じていただけるようにしている。</p>	<p>開放的な空間と木の香りにより、とても落ち着ける住環境である。室温調整や掃除を徹底し、利用者の健康管理に努めている。利用者個々の居場所があり、一人ひとりが心休まり、安心して生活されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>実施した行事の写真を掲示したりして、利用者様同士の話題のきっかけ作りをしている。季節の飾りつけをし、季節感を出している。気の合う利用者同士での、居室の行き来もある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>各居室には、手づくりカレンダーや誕生日の色紙を飾っている。居室は、入所前のなじみある家具を使用したり、写真や置物等を置き、違和感のない環境で過ごせるようにしている。</p>	<p>利用開始前には、必ず、事業所を見学して頂き、事業所内の状況を本人・家族に開示している。本人・家族と話し合っ、馴染みの物や使い慣れた物を持ち込んで貰い、本人が居心地良く生活できるように、快適な居住空間づくりに努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>安全を念頭に置いて、利用者を尊重しながら、能力に応じた環境作りをしている。残存能力を維持できるように、自身でできることは見守りの下で、本人にして頂き、足りない部分は支援している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが
		○	③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 誠心園グループホーム

作成日 平成29年4月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念に添っての支援が行なわれていない	理念に添った我が家のような生活作りに向けた支援が出きる職場作り	担当者だけでなく職員自ら利用者様とのかかわりの時間を増やし知り得た情報を共有し個別支援を行なう	1年以内
2	49	外出行事が出来ていない	1月に1回の外出	担当者を決め計画を立て実行する 行事に合わせた勤務表を作成する	1ヶ月以内
3	40	食事は味噌汁のみ職員が作っている	利用者様と一緒に料理を作る	おやつ作りから始め買い物献立を利用者様の意向に沿って計画を立てる	1ヶ月以内
4	22	利用者様ご家族の意見が余り組み込まれていない	利用者様御家族の意見を取り入れたケアプラン作り	3ヶ月に1回の生活状況報告にアンケートを付け意見を聞く	6ヶ月以内
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。